

汚染水を海に流すな！

この暴走政治は変えるしかない

政府は8月24日、東京電力福島原発事故で発生した汚染水を漁業関係者や多くの反対を無視して海洋放出しました。

専門家は「IAEA

は問題あり」の見解

政府は国際原子力機関（IAEA）が「国際的な安全基準に合致する」とした報告書を根拠にしていますが、市民や有識者でつくる原子力市民委員会は、次のように述べています。

○IAEAは原子力利用を促進する機関で中立的とはいえない。報告書は政府の決定を前提にして追認したにすぎない。

○世界の原発がトリチウムを含む水を排出しているというが、事故炉から生じた汚染水が海に流されたことはない。

○大型タンク保管やモルタル固定化等他の選択肢を検討していない。

○関係者の理解なしに放出しないとの約束を無視した不誠実で不透明なプロセスを完全に見逃している。等です。

聞く耳がない政府

政府は放出に関して漁業者の理解をえるとしていました。「理解をえる」というのは近隣諸国の理解をえることも、政府の責任です。しかし、それをしませんでした。放出後に中国が日本産の魚介類の輸入中止、嫌がらせ電話もきているといいますが、嫌がらせ電話は許せませんが、これは政府が中国に「理解をえる」ことをしてこなかった現れではないでしょうか。これを解決させるには汚染水放出をやめること、外交努力によって解決させることです。



地本大会での

教訓的な発言

8月26日の地本大会で、銀座支部の発言は教訓的です。

「スキル評価で非正規社員のA君は昨年9月の評価で「Aあり」から「Aなし」に下げられた。下がった理由が納得できなかった。苦情処理会議でも納得のえる回答がされずに下げられたままであった。そのA君が今年の3月の評価で「Aあり」に戻った。本人は当局の指示通りの仕事を以前も今日も同じようにやっているのに評価だけは下げられたり、戻ったりしていることに驚いている。また、組合が苦情処理会議にかけたことが「Aあり」に戻ったことに感謝している」

この発言を聞いて思ったのが当局は相変わらず恣意的評価をやっており、これをさせないために組合はいつでも対応できるようにしていきたいものです。